



空き巣の被害は年々増加していますが、泥棒が犯行におよぶ時、気にするのは

**ズバリ！「狙った家が留守であるかどうか」「侵入しやすく逃げやすい家かどうか」**だと言われています。多くの場合、泥棒は事前に下見をし、これらのポイントを確認しているようですが、具体的にどういった家が被害に遭いやすいのでしょうか。ご自宅と照らし合わせてチェックしてみてください。

## 泥棒に狙われやすい家とは・・・

### ・留守なことが確実にわかる家

泥棒は直接呼び鈴を鳴らしたり、郵便受けにたまった新聞などの溜まり具合で不在を確認することが多いようです。また、夕方以降でも洗濯物が干しっぱなしのままだと、留守な事がバレバレなので気をつけましょう。

### ・死角となる立地条件にある家

『人目のつかない奥まった所に入り口や窓がある、街灯がなかったり人通りの少ない道路に面している、駐車場に隣接していたり裏口も道路につながっている。』といった家は、ターゲットにされやすいようです。

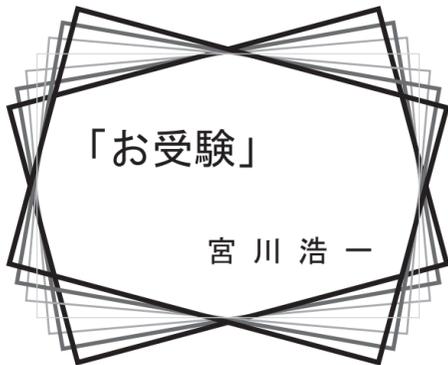
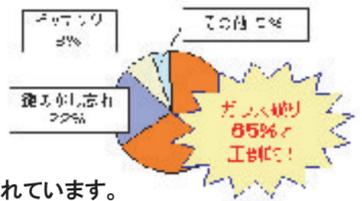
### ・足場となる物がある家、窓のクレセント錠が開けやすい位置にある家

### ・周りで大きな音がしている家(近所に工事現場や線路があるなど)



## ～防犯まめ知識～

戸建住宅の場合、最も多い進侵入手口は「**ガラス破り**」だと言われています。補助錠をつけるなど、死角となりやすい所は特に、ガラス面を重点とした対策をすると、効果的だと言われています。



「お受験」というと、筆者である私の年齢から想像いただき、当然子供の事を書くのであらうとお考えの方が殆どであらうと思います。確かに今年是我が娘の受験であります。が、ここで書くのは娘ではなく私の「お受験」です。

今年になり、社内的な事情からほぼ仕方なく、しかしながら絶対的な必要にかられて、まだ未取得の建設業に必要な資格を目指す事になりました。

この年齢からの「お受験」というのもかなり大変なものなのですが、どうせ受験するなら何とか一念発起し、無謀にも数種類の資格を受験する事を決意しました。それならば本気で合格を目指そうと、学校にまで通う事を決意したわけです。

実は丁度この原稿を書いている今が試験真っ只中なのです。(成果は又いつかの機会にもしくはお問い合わせを頂ければお答えしたいと思います。)

このお受験を通して、改めてなるほど理解できた事があります。

1. 白黒はっきりしている
2. したがって言い訳は何も通じない
3. 孤独
4. 次はない
5. 子供は言い訳をしない

簡単な事なのですが、本当に言い訳の出来ない挑戦なのです。勉強の仕方が悪かった、体調が悪かった、寝坊をした、先生の教育が悪かった、何を言っても不合格は不合格。それ以上もそれ以下もない訳です。言い訳を聞いている方は虚しく、気の毒なだけです。しかも誰とも共有できない、いつも自分ひとりの挑戦なのです。

同時に気付いた事があります。それは社会人(大人)の方が余程言い訳で逃れられているケースが多いのかな、と。大人たちからよく耳にする言葉。「これは組織に問題があるのでは」「ある程度いいところまで行ったからよしとしよう!」「今回ダメでも次頑張ろう」「とりあえず嫌な事は飲んで忘れよう!」ふと考えました。「人間とはいつ頃から言い訳を得意としだすのだろう」と。

どうも、この「お受験」終了を界として言い訳の人生がスタートするようになってきました。自分の人生、又は身近な人間の過去をよくよく振り返ってみると、まんざら間違いでもないのかなと感じます。

我が子を見ていても確かに言い訳はしま

せん。というより未だ言い訳を知らないのでしょうか。純粋な挑戦者であり、「ダメだったら」なんて考える余地もない程、ぎりぎりなのでしょう。世の中を受験生諸君には本当に頭が下がります。

確かに白黒はっきりしている、言い訳の出来ない、次のないぎりぎりの挑戦は辛く厳しく出来れば誰もが逃げ出したい環境です。しかし子供たちはそんな状況の中で生きている。よし悪しは別として。

そんなぎりぎりの環境にいる子供たちから、言い訳で逃げ回っている大人を見たらどのように映るのでしょうか。親を、学校の先生を、大人たちを尊敬しない子供たちが増えていると言われるのも頷けます。

それでも大人たちは「学校環境の問題」「親の教育の問題」「社会システムの問題」と真顔で責任回避を論じているのですから。今回の「お受験」では、本当に良い経験と気付きを頂きました。バカな私でも本気で取り組んでいる姿は、子供には頼もしく映ったようです。これを機会に言い訳のない環境へ本気で挑戦してみましよう。

今年は皆様との「交流」を一つのテーマとしています。ご意見やアドバイス、何でも結構です。皆様からのメールをお待ち致しております。必ず返信いたしますので!

k-miyagawa@yamasyo.net



知ってお得な節約術!  
**安く**  
**冷房代**を抑えるには

・健康のためにも28℃以上の設定を  
⇒設定を1～2℃変えるだけで約10%節電

・扇風機、うちわを使う  
⇒扇風機の電気代はエアコンの1/15。うちわと併用して使えば冷気の偏りを防ぎ、効率的・経済的

・冷たい空気は下に溜まりやすいので、吹き出し口は上向きに(水平)に  
⇒吹き出し口の下やそばに家具などを置くと冷気が遮断され、冷えにくくなるので注意

・風量は自動運転、設定はドライがおすすめ  
⇒弱風・微風では効率良く冷えずらいので、逆に電気代がかかりがち。自動だと設定温度で止まる分、節電にドライモードは湿気を取り、体感温度が低く感じられるのでおすすめ

・カーテンやブラインドで日差しを遮断  
・帰宅後すぐにスイッチを入れずに、まずは換気を ⇒熱気が逃げ、少しでも早く冷やせる

・室外機に直射日光を当てない、周りに物を置かない  
⇒熱交換しやすい環境にすると節電に

・少なくとも二週間に一度はフィルター掃除  
年に一度はエアコン内部の掃除を

・エアコン自体を見直す  
⇒10年前のものに比べ、最近の省エネ機能のエアコンは消費電力が約半分になったとか・・・詳しくは電気屋さんで!

番乗りをして、しっかり中央の席に着いた。

いよいよ開幕。衣装は体操服の上から、赤や黒のビニール袋を役に応じて被っている。：深海で大きな魚に襲われて、一人ぼっちになったスイミーが、新しい仲間を見つけ小さな仲間達と力を合わせて一つになり、大きな魚に見せかけて勇気を出してみんなで生きていく：という話である。娘はいそぎんちゃくの役。踊ったり、歌ったり、一人ひとりが長い台詞を語る場面もある。

二週間足らずの練習で、良くぞ此処までと言うぐらいの素晴らしい出来である。深海をゆったりと泳ぐ海蛇、先頭の子供が両手を直角に上げて角を表現すれば、続く子供達が一定の間隔で歩きながらクネクネと身体を揺らす。大きなえびの行列である。娘達のいそぎんちゃくも、寝そべって足を高く上げ、リズムに合わせて左に右にとピタリ息が合っている。どの子も目を輝かせ一生懸命演じている。

ダンスや音楽の先生方の指導の賜物でもあり、思わず目が潤んでしまう。担任の先生も最後の挨拶で、「子供達は、短い時間の中で本当に頑張ったので、お家で一杯褒めてやって下さい。」と言いつつ「僕も感動ですわ。」と涙声。隣の息子が「レベルが高いナー。俺もグツときたわ。」と囁けば、照れ笑いの娘が、教室まで会いに行った息子に「彩、お兄ちゃんとママすぐに見えたデー。」とニコニコ話している。

「今日小学校行ってきたわ。懐かしかった一。」娘の小学校生活に感化されたのか、息子も母校を尋ねたらしい。ちょうど4年生の時の担任のK先生がいらして、とても喜んでくださり、隅々学校を案内して貰い、特に自動でプールの水位がコントロール出来る可

動式プールの設備に驚いた、と話す。

「彩ちゃん来て欲しかったけどなー。て先生言うたはったで。」と云われ胸が痛む。息子が3年生の時の担任は、私が4年生の時に世話になったS先生。立派なプールは5年生の時に出来た。2学年上の姉が中学に進んだ後に完成したので、羨ましがられた記憶がある。

当然娘も同じ母校にと考えていたが、突然の新小学校の誕生で、それも歩いて通学できる距離、ましてや大学まで行ける。息子の時にも中学受験は大変であり、何より共学というのが魅力であった。私と息子に母校のバザ一案内が届く度に、娘を思うけれど、また新しい歴史が築かれていくであろうと其々の人生を思う。

愚図ついた天気の良い夏休み、それでもせつからだから家族で温泉付プールに行こうと北陸に向かったが、太陽はほんのつかの間しか顔を出さず、水着の上から厚いパーカーを着込んだ大人達が見守る中、娘は「さむいー。」と叫びつつ長い滑り台から勢い良くプールに飛び込んだ。

春休みには、男湯に主人や息子と平気で入っていた娘が、「パパとお風呂いこか？」と熱心に誘う主人に「彩おんなやから、男の人のところは入れへんわ。だってそれは恥ずかしい事やもん。」とそっけない。「ほな、お家に帰ったら又パパと入ろな。」と主人は確認までしている。「お家のお風呂は温泉違うから大丈夫やけど。でも彩、一人では入れるもん。」娘はだんだんお姉ちゃんになっていく。

「おいしいなー。毎日が天国や。」としみじみ話していた息子がまたイギリスへ戻る日が来た。仕事が立て込み、見送りもままなら

## 40代からの子育て

山内 早苗

「重たいなー。もう彩、無理。」前を歩く娘が叫んでいる。さりとて私も両手いっぱい荷物。お道具箱に凶工の展示物。「もうちょっとで、駐車場やからがんばりなさい。」後ろから声を掛けると、大きな落花生の鉢植えを持った娘が前を向いたまま頷いている。

明日から、いよいよ夏休みが始まる。学校で育てている落花生の観察記録も、宿題の一つ。2学期制なので、通知簿はない。夏休みの間に三者面談があり、担任から親子で話を聞く。名簿順なので娘は四日後の午後一時。

「お帰りー。今日から夏休みやなー。」と息子が迎える。10月提出の卒論を控え、長い休みは取りにくい様子で、十日間ほど日本にいてまた下宿に戻るらしい。祇園祭りを楽しみにロンドンからお友達もいらしたけれど、生憎の雨で「日本に帰ったら眩しいぐらいの太陽が見られると思ってたのに。」とロンドンでは気が滅入るほどの曇り空が続き、日光浴を楽しみにしていた息子が嘆いている。

「お兄ちゃん来てくれはるかなー。」娘がずっと言い続けていた学校での観劇の日にも間に合った。国語の時間に習った・スイミー・の音楽劇をクラス毎に演じる。二時間目の授業に併せて息子と早目に家を出た。初めて見るアクトシアターと呼ばれる観劇場に「すごいなー。」と息子が驚いている。一

## 太閤秀吉に届いた歌二つ

山内 徳三郎

\* 歌詠みとしても有名な細川幽斎が、あるとき太閤から式服を貰った。

ところがその羽織の長さが、あんまり長いので、くださるる小袖のたけの長ければ

かたじけなさは、身にぞ余れる  
と書いて贈ったと、いうことである。

\* 「望むことがあれば、どんなことでも云ってみよ、かならず叶えてやるう」

ふところ刀ともたのむ曾呂利新左衛門が危篤ときいて太閤は、そう云って使いの者をやって見舞わした。そのころは、朝鮮征伐の真最中であつた。

新左衛門は、重病の床にいたが、

御威勢で三千世界手に入らば

極楽浄土 われに賜われ

と返事をしたということである。

(完)